



学校通信 令和6年9月13日 (臨時増刊号)

東広島市立中央中学校

<http://www.city.higashihiroshima.lg.jp/school/chuou-chu/>



令和6年度 全国学力・学習状況調査等の結果について

3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」(4月)、1・2年生を対象にNRT標準学力調査(6月)を実施しました。次の表に示しているとおり、概ね全国平均を上回っており、基本的な学力が身に付いています。今回の結果を受け、各学年・各教科で課題と改善に向けての手立てをまとめました。

■学力調査の平均正答率(%)

学年	全国学力・学習状況調査				NRT 標準学力調査					
	3年生				2年生			1年生		
教科	国語	数学	英語		国語	数学	理科	国語	数学	理科
			聞く読む書く)	(話す)						
中央中	72	54	44	11	60.0	55.2	60.3	65.5	62.2	66.2
東広島市	73	53	42							
広島県	70	49	43	12						
全国	69.8	51.0	45.6	12.4	57.4	54.4	61.4	61.3	58.7	62.6

■学力調査の分析及び今後の手立て

国語	【1年】「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のすべての領域において正答率が全国を上回っていた。「送り仮名を含む漢字の書き」の観点で課題があった。今後、継続して漢字テストを実施し、「書くこと」の能力の向上を図る指導を行う。
	【2年】正答率はすべての領域において全国を上回っていたが、「書くこと」の観点における「漢字の書き」の観点において課題があった。今後、継続して漢字テストを実施するとともに、教科書を読むことや読書を通して、漢字の読み書きの習熟と応用を図る指導を行う。
	【3年】正答率はほとんどの領域で全国を上回っていたが、「書くこと」の観点において課題がみられた。この課題を克服するために、文章を読み、読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整え、書くことができる活動を授業に取り入れていく。
数学	【1年】「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のすべての領域において正答率が全国を上回っていた。「データの活用」の「起こりえる場合」の領域において課題がみられた。不確実な現象についての実験や観察を行い、確率についての理解を深め、それをを用いて考察し、表現できるような活動の場を多く設定する。
	【2年】正答率は「数と式」「データの活用」の領域で全国を上回っていたが、「図形」「関数」の領域で全国を下回っていた。観察、操作や実験などの活動を通して空間図形の理解を深め、図形の計量の能力を伸ばす活動を取り入れる。また、日常の問題を比例や反比例としてみる問題を取り扱う。
	【3年】正答率は「数と式」「関数」では全国を上回っていたが、「図形」「データの活用」の領域に課題があった。複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる活動の場を設定していく。
理科	【1年】正答率はすべての領域において全国を上回っていた。「月と太陽」の観点で、天体の動きの問題が全国を下回っていた。月と地球と太陽の位置関係による月の満ち欠けに苦手意識をもつ生徒が多いため、3年の学習時には小学校の内容を振り返りながら丁寧に指導する。
	【2年】全体の正答率は全国と比べると下回っていた。特に「力のはたらき」「状態変化」「火山活動と火成岩」の領域において課題が見られた。1年生の学習内容の復習や問題演習を行い、基礎的な知識を習得させ、理解を深める活動の場を多く設定していく。
英語	【3年】「読むこと」「書くこと」の正答率は全国を上回っていたが、「聞くこと」の領域に課題があった。日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取る活動の場を設定していく。社会的な話題についての英文を聞き、短い説明の要点を捉えることができる場面を設定する。
	【3年】「話すこと」調査の正答率は広島県、全国と比べると下回っていた。動物園でのやり取りの中での話を聞き、質問に答えたり、理由を伝える問題の正答率が低かった。社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す場を授業で多く設定していく。